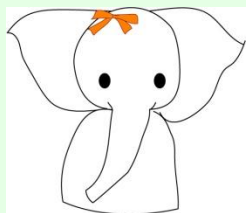


宮崎県・新燃岳噴火災害 被災地支援活動



被災地NGO協働センター(兵庫県神戸市)

被災地NGO協働センター

- 兵庫県神戸市兵庫区
- 1995年1月17日の阪神・淡路大震災をきっかけにできた市民団体
- 主な事業
 - (1) 日本国内の被災地支援
 - 兵庫県佐用町(2009年台風9号水害)
竹炭焼き、森林整備など
 - 「中越・KOBÉ足湯隊」事務局
(被災地への足湯ボランティアの派遣)
 - (2) 防災・減災を拡げるための取り組み
 - 「寺子屋セミナー」
 - (3) 被災者の生きがい仕事づくり
 - 「まけないぞう」(写真上)



新燃岳の噴火



地図:時事通信社

被災地NGO協働センター



噴火後の経緯

- 1月19日：新燃岳の噴火が始まる。
- 1月26日：噴火警戒レベル3(5段階中。入山規制)に引き上げ。
- 1月27日：52年ぶりの爆発的噴火。
- 1月30日：高原町、町内の513世帯・1158人に避難勧告。
約600人が避難。
- 2月5日：高原町、一部を除き避難勧告解除
- 2月15日：高原町、27世帯・73人への避難勧告解除
(全面解除)
- 2月17日：都城市、降雨の影響で土石流が発生する恐れがあるとして市内の1148世帯2523人に
初の避難勧告。同日解除。
- 2月28日：宮崎県、高原町と都城市に災害救助法適用。
- 3月1日：13回目の爆発的噴火。





美しい霧島山の眺め



噴煙を上げる新燃岳



風で流される噴煙



家や道路に降り積もる灰



田畑に降り積もる灰



灰で霞む町



屋根に積もった灰。1平米あたり9~18kgと重い。



直径1～数センチの噴石が降ってくることもある。



集めた灰を捨てる場所。多くの人々がやってくる。



広大な灰捨て場だが、灰があまりに多く
どんどんいっぱいになる。



降灰の影響で通行止めになった道路



ビニルハウスに積もった灰は、日光を遮ってしまう



ビニルハウスの灰を掃除する農家



ホームセンターでは灰を吹き飛ばす「ブロワー」が売られている



降灰は農家の暮らしに大打撃を与えた



避難所の様子。床が固くて腰が痛いという人もいた。



宮崎県内の小学生から
高原町に寄せられた、
励ましの手紙。
(高原町避難所にて)



避難所での「足湯ボランティア」

足湯ボランティアって...？

■阪神・淡路大震災（1995年1月）時に、東洋医学を学んでいた李章根さんが仕掛け人となって始まった。

■新潟・中越地震（2004年10月）時に、被災地NGO協働センターの吉椿雅道が小千谷の避難所・仮設住宅で足湯を広め、中越復興市民会議、大阪大学fromHUS（学生ボランティア）が継続。



足湯の効果



- 血液の循環が良くなる
- 循環がよくなり、深部体温が下降し、睡眠を促進
- 寄り添いによる安心感から睡眠効果を促す
- 消化管運動へ良い影響がある・空腹感が増す
- 38－40℃でリラックス効果あり
- 足浴刺激により心身のリラクゼーションの効果がある。
- 不安や緊張を緩和し、自己を語ったり、安心して感情を表出するといった自己表現を促進する。
- 足浴場面を通して、情緒的葛藤が軽減される。

看護の世界でも足湯(この場合は足浴)の効果が見直され、認められています。『第1特集 足浴をきわめる 臨床看護 2007Vol.33 No.14』には、一般人と患者(精神疾患患者・終末期患者・対応困難患者)に対しての足浴の研究結果が特集されています。

足湯に使う
お湯の準備







都城市のお寺の集まりでも足湯。ほっとひと息。

神戸大生4人 足湯で励まし

■霧島連山・新燃岳噴火

霧島連山・新燃岳噴火の被災者を励まそうと、神戸大の学生4人が被災地を訪れ、14日夜から足湯を提供するボランティアを始めた。噴火から約3週間がたち、長引く避難所生活で疲れが出始める人も多く、学生たちは、足湯で被災者の心身を癒やしながら悩みや本音にも耳を傾けている。

同大の学生らでつくる「中越・KOBEBE足湯隊」。たらいに張った湯に足をつけてもらい、手足をマッサージしながら会話を交わす。これまで岩手・宮城内陸地震（2008年）や兵庫県西・北部豪雨（09年）などの被災地を回った。

今回は同隊の有志が14日に宮崎県に入り、一足早く足湯を始めているボランティア団体「被災地NGO協働センター」（神戸市兵庫区）と合流。

4年の頼政良太さん(22) 神戸市灘区 〓は避難所生活が長い40代の女性を担当。「いつ噴火するかも分からないし、家に帰りたいけども帰れない」と肩を落とす姿に、想像していた以上の疲れを感じたという。

同隊は17日まで滞在する予定。頼政さんは「地元のボランティアにも足湯を伝え、継続的な支援につなげたい」と話している。（斎藤絵美）

長引く避難の疲れ癒やして



避難所生活が続く被災者に足湯を提供する学生たち
〓宮崎県高原町

足湯隊が聴いたつぶやき



「もうだめやね。観光もだめになってしまった。
誰もけえへんわ。ここは山も川も森も本当にきれい
なとこやったのに……。」

商品（花など）を販売したお客さんが代金6000円の
ところ1万円振り込んでくれて『多めに入れときます。
がんばって！』と書いてくれたわ。そうやな、負けへ
んで！がんばらなあかん！立ち直らなあかん。

でも商品全部だめになってしまっって…
いまから違う商売せえいうてもでけへんしなあ。」

足湯隊が聴いたつぶやき



「屋根の灰おろしがねえ・・・

果樹園をやってるから、そのお世話を優先させてるとどうしても自分の家が後回しになっちゃってね。やってもらえると助かるんだけど。

「このあたりは噴石も飛んでくるの。

何回目かの噴火のときに、噴石が降ってきて怖くて家の中に入っちゃった。

瓦に当たったらしくて、今日そこから雨漏りしてたわ。」

足湯隊が聴いたつぶやき



「避難所はしんどかったわ。
夜は2～3時間しか寝てない、眠れないもん。
でも親子3人で寝ているから、ふと目が覚めて
横にいる子どもの顔を見ると、
がんばらなあかん、と思うね。
子どもがいるからがんばれるよ。」

家に帰っても布団では寝ない。
怖いから。こたつで3人で寝るよ。
玄関に荷物置いて、すぐ逃げられるようにして
ね」

足湯隊が聴いたつぶやき



「灰がほんまにひどいなあ。
道路の真ん中の、車が通るところは灰を掃除
してるけど、その分を脇によけてるから、歩道
にたまっとるんよね。」

じいちゃん・ばあちゃんらは電動車イス使っと
るやろ。歩道を通られへんから困ってるわ。」

車道を車イスで通るのも危ないやろ。
だから出歩かんくなってしまうわな。」



2月15日、高原町長が避難勧告解除を告げた。
しかし、今後への不安が消えたわけではない。



灰の掃除をするボランティア



屋根の上に積もった灰を掃除するボランティア



雨どいの灰をそのままにしておくと、
壊れてしまう恐れがある



屋根の掃除は、不慣れな人にとっては危険。



宮崎県内外から集まってきたボランティアたち



神戸の被災者がつくった「まけないぞう」を届けた

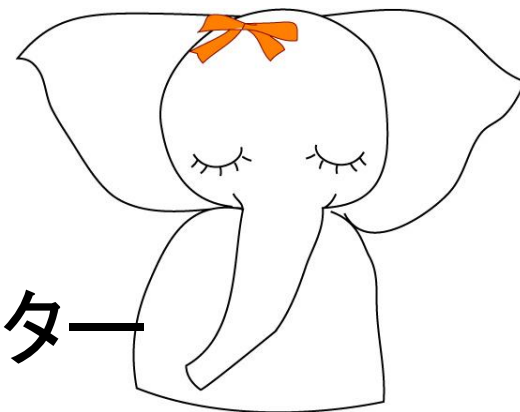
今後の課題

- 長期化への不安、精神的・肉体的ストレス
- 灰の除去
- 農業・畜産への被害対応
- 避難や支援策に関する情報の不足・かたより
- 多様な、「一人ひとり」のニーズへの対応、相談の受付
- ボランティアと被災者とをつなぐ動き



今後もご支援・ご協力
よろしくお願い致します。

ありがとうございました。



被災地NGO協働センター